

やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」(青森)発行

誌 名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	26 / 2009 / 15-25
タイトル	青森県の植物(4) 海辺の植物 《夏泊半島:大島～椿山～白砂海岸～浅所》
著 者 名	二唐壽郎

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

青森県の植物(4)

海辺の植物 《夏泊半島: 大島～椿山～白砂海岸～浅所》

第7代 二 唐 壽 郎

夏泊半島

海辺の植物(1)では津軽半島、(2)では下北半島、(3)では西海岸をまとめた。今回は(4)として、夏泊半島の植物をまとめた。

夏泊半島は、浅所海岸の白鳥そして椿山の北限のヤブツバキの咲く場所としてよく知られている。また、花好きの人には、大島の春早く咲く野生のフクジュソウの自生地としても知られている。私も毎年、花の写真の撮り初めは大島のフクジュソウから始まる。その年によって多少の早い遅いは有るが、平均して3月中旬頃咲き始めている。ところが今年は、2月28日植物の仲間から大島でフクジュソウが咲き始めているという情報が入った。今までの私の記録では咲き始めは3月10日前後なので今年は2月下旬から3月上旬まで気温が高かったのが異常といえる位早く咲いたことになる。昨年も暖冬だったが3月15日～20日が最盛期、今年は3月に入りすぐ出かけようと思っていたが、出かけられず3月9日天気も良かったので出かけたところ、斜面一面見事なフクジュソウが春の日を浴び咲いていた。

椿山では、日の当たるところにヤブツバキも咲き始めていた。夏泊半島と同じようにヤブツバキの自生する西海岸は、暖流の影響で温かいのは理解できるが、夏泊半島がヤブツバキが自生したり、フクジュソウが3月中に咲き始めるのは気候がどうなっているのかインターネットで探してみたが資料は見つけることが出来なかった。(西海岸の気候については、やぶなべ24号をみてください。)

今回は、大島と椿山のツバキと、ミチノクワビシンについて文献やインターネットで調べたものを中心に、毎月1回調べた夏泊半島の植物を一覧表にまとめた。海岸特有の植物も有るが、ちょっと海岸から離れると、野山に有る植物もたくさんある。順路として、茂浦から入り大島・椿山・白砂海岸・浅所と回って調べた花の一覧表と今まで載せていない花の写真と解説を載せる。



大 島

夏泊半島北端にあり昔は干潮の時は歩いて渡れたが満潮になると腰まで潮が満ち帰る時衣服を濡らしてしまった経験もあるが、現在では陸橋が出来満潮の時でも渡れるようになった。周囲3km面積20haあり麓から50段ほどの階段が作られて突端の白亜の灯台まで1kmほどの遊歩道が続いている。東海岸は岩盤が延びた堆積海岸が続いている。しかし西海岸は急な海崖になっている。



※ゴシック体は写真と説明がある物。(以下同じ)

植 物 名	科 名	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
フクジュソウ	きんぽうげ科	●	●						
アズマイチゲ	きんぽうげ科	○	○						
キクザキイチゲ	きんぽうげ科	○	○						
ニリンソウ	きんぽうげ科		○	○					
オトメエンゴサク	けし科	○	○						
カタクリ	ゆり科		●	●					
エンレイソウ	ゆり科		●	●					
キバナノアマナ	ゆり科		●	●					
エゾオオバコ	おおばこ科			○	○	○	○		
キンギンボク	すいかずら科			○●					
キバナイカリソウ	めぎ科		○	○					
アズマギク	きく科			●					
ミツバアケビ	あけび科			●	●				
ミツバツチグリ	ばら科		●	●	●				
クルマバスウ	あかね科			○	○				
センボンヤリ	きく科			○	○				
ハマハタザオ	あぶらな科			○	○	○			
カシワ	ぶな科			●	●				
クロマツ	まつ科			●	●				

植 物 名	科 名	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
サルトリイバラ	ゆり科				●				
オオウバユリ	ゆり科						○		
キバナノカワラマツバ	あかね科					●	●●		
ハマボッス	さくらそう科				○	○			
ハマボウフウ	せり科				○	○	○		
スズムシソウ	らん科				●				
アサツキ	ゆり科				●	●			
スカシユリ	ゆり科				●	●			
キリンソウ	べんけいそう科					●	●		
ノイバラ	ばら科				○	○			
ウンラン	ごまのはぐさ科					●	●	●	●
オトコヨモギ	きく科						○	○	
カワラナデシコ	なでしこ科					●	●	●	
オオハナウド	せり科			○	○				
ヤマツツジ	つつじ科			●	●				
ナミキソウ	しそ科				●	●			
オオダイコンソウ	ばら科				●	●	●		
ハマダイコン	あぶらな科				○	○	○		
オニハマダイコン	あぶらな科				○	○	○		
ハマナス	ばら科				●	●			
ホタルカズラ	むらさき科				●	●			
ジシバリ	きく科				●	●			
ヤマブドウ	ぶどう科				●				
キタノコギリソウ	きく科				●	●	●		
ノブドウ	ぶどう科					●	●		
センニンソウ	きんぼうげ科						○	○	
ハマトメクサ	なでしこ科		○	○	○	○	○		
ヒメヤブラン	ゆり科					●	●		
アメリカオニアザミ	きく科					●	●		
スナビキソウ	むらさき科				○	○	○		
ヒロハノカワラサイコ	ばら科				●	●	●	●	
エゾノコギリソウ	きく科					○	○	○	○
オカヒジキ	あかざ科					●	●	●	●
コハマギク	きく科							○	○
エゾニュウ	せり科						○	○	○
オオノアザミ	きく科						●	●	●
ヤブタバコ	きく科						●	●	●
オオアキノキリンソウ	きく科							●	●
ミズヒキ	たで科						●	●	●
オクトリカブト	きんぼうげ科						●	●	
ハマゼリ	せり科						○	○	
ママコノシリヌグイ	たで科					●	●	●	

◆フクジュソウ (キンポウゲ科) 【福寿草】

自生地としては、西海岸の深浦が黒潮の関係で一番早く咲くので知られている。大島は、福寿草の咲く3・4月は冷たい風が強く、頂上付近の尾根で吹き飛ばされそうになったことが何度もある。雪が消えるのを待っていたかのように黄色の花を咲かせるが、パラボラ型に成っている花被片の表面がクチクラ層に成っているため反射鏡の役目をして丁度凹レンズと同じ働きをし、焦点が雄シベに結び天氣の良い日には周りより2～3度温度が高くなり虫を呼び受粉させるそうだ。早春に花を咲かせる植物はそれぞれの環境に適応してうまい具合に進化した物だ。そういえば、曇ったり、雨の日には花を閉じている。それにしても南に面した斜面一面に咲くこの花が何時までも咲き続けて欲しいと願わずにはいられない。盗掘された後が毎年見受けられる。



◆アズマイチゲ (キンポウゲ科) 【東一華】

フクジュソウよりやや遅れて咲くが、キクザキイチゲと同じ所に咲くので、気を付けないと見間違ってしまうが、葉をよく見るとアズマイチゲは、茎葉3枚が輪生し垂れ下がり、小葉の先がキクザキイチゲに比べ円味を帯びているので区別できる。花の基部は紫色を帯びている。



◆ニリンソウ (キンポウゲ科) 【二輪草】

キクザキイチリンソウ(キクザキイチゲ)に対し花が二輪、時には三輪つける。カタクリ、フクジュソウなど早春の花が終わると大島の西斜面一帯にニリンソウが真っ白に埋め尽くす。キンポウゲ科の植物は毒草が多いが、ニリンソウはフクベラといって山菜として食べられる。しかし、すぐそばに葉の形がよく似ているオクトリカブトが生えていることが多く、毎年何人かの人々が食中毒で新聞に載るので十分に注意が必要である。この花は、先祖返りで花被片が緑になり、ミドリニリンソウと呼ばれている。十和田湖の宇樽部や平川市の志賀坊で見つけているので大島でも探してみたが見つけることは出来なかった。



◆オオハナウド (セリ科)

【大花独活】

6月に入り、春の花が一段落した後フクジュソウの咲いている道を少し進み急斜面を下ると、灯台が見える場所へ出る。1.5m～2mと人の背



丈より大きく遊歩道が見えなくなるくらい斜面一帯に大きな複散形花序の花が多数に咲く様は、まさに圧巻である。せり科の植物は似たものが多く中々同定しにくいがおオハナウドは花が大きく花序の



へりがV字形をしてるのですのですぐ分かる。若芽は食べられると言うが、私は未だ食べたことはない。(前ページの写真参照)この花を広角レンズでアップして、バックに灯台を写し込むといい写真が撮れるので、写真の好きな方は、挑戦してみたら如何でしょう。

◆オオダイコンソウ (ばら科)【大大根草】

大島の頂上灯台の有るところから麓の草原まで有り、黄色の色のため良く目立つ。花期は長く6月～8月が最盛期であるが、10月頃まで咲いていることもある。根出葉の形状が小葉が大小交互して、ダイコンの葉のようなのでこの名前がついた。



椿 山

『通称椿山は民有の風致保安林で有るが、日本固有のヤマツバキが幾千株となく繁茂して自然林をなしているために、大正11年(1922)10月12日附で内務省が天然記念物と指定して保存するようになったのである。椿山は北緯41度9秒東経140度54分228秒の所に位し、野辺地湾の西南海岸に臨んでいる丘陵で、12メートルから60メートル位海面を抜いている。…この保安林の総面積は、22ヘクタールで、内東部は約7ヘクタール西部は10ヘクタールになっている。…』
青森県の博物集成(和田干蔵著昭和55年5月11日発行)我が郷土の天然記念物(3)より引用

※直径5センチ以下の幼木から推定200年～500年の老木まで12,912株あった。

青森県林業試験場風致保護林報告書(1977年)

植 物 名	科 名	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
ヤブツバキ	つばき科	●	●	●					
ミチノクワビシン	つばき科	●	●	●					
オオイヌノフグリ	ごまのはぐさ科	●	●	●	●	●	●		
ハマハコベ	なでしこ科				○	○	○	○	
ハマエンドウ	まめ科				●	●			
エゾオグルマ	きく科					●	●	●	
オトコヨモギ	きく科						●	●	
ラセイタソウ	いらくさ科				雌花	●	●	●	
					雄花	●	●	●	

植 物 名	科 名	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
エゾオオバコ	おおばこ科			○	○	○	○		
エゾヒナノウスツボ	ごまのはぐさ科				●	●	●		
ヒロハクサフジ	まめ科				●	●	●		
ウンラン	ごまのはぐさ科					●	●	●	●
ハマアカザ	あかざ科						●	●	●
ハマイブキボウフウ	せり科				○	○			
コハマギク	きく科							○	○
エゾニュウ	せり科						○	○	○

「ヤブツバキ」と「ミチノクワビシン」について

花の名前にアオモリとかツガルとかミチノクなど自分の住んでいる地名に関係するものが付いていると、未だ見たことがない花でも何か親しみを感じ、その花を頭の中でイメージすることがある。

ミチノクワビシンもその一つで初めてその名前を聞いた時、北国みちのくに寒さに耐えてまばらにポツリ、ポツリと咲く小さな椿の花をイメージしていた。深い理由はないが、ミチノクワビシンという名前がすっかり気に入ってしまった。『ミチノクワビシン』の名前に最初に接したのは、4年前やぶなべ会6代の私の1年先輩の棟方啓爾さんのホームページ『青森の自然』と、それから間もなく『青森県植物図譜』岩淵功氏画、細井幸兵衛・神真波解説に発表されたホームページからである。

今まで椿山に咲いている椿は、すべてヤブツバキだとばかりと思っていたので是非本物を見て、写真を撮りたいものだと思っていた。一昨年と昨年4月初めに椿山へ出かけ、あちこち探したが見つかることが出来ないで、棟方さんに聞いたら「道路端に咲いてるよ。」とのことだったが見つけれないでいた。

今年こそどんなことがあっても探し出そうと、3月9日に出かけたが見つかることが出来ず4月30日再度探しに行くことにした。最良の助手である妻を伴って出かけ、岩淵氏の図譜と細井氏の解説を頭にたたき込み、家内にも特徴を教え1時間以上二人で探し続け「お父さん、あれでない。」との声に急いで行って見たところまさに探し求めていたミチノクワビシンが目の前にあった。4m～5mの緑の照葉の中にヤブツバキより一回り小さい薄紅色に咲いている満開のミチノクワビシンを目の前にして思わず「アッタ！」叫んでしまった。イメージしていたものより花数が多かったが、色といい、花の大きさもまさに頭に描いていた通りの素晴らしい花だった。

三脚とカメラを持ってジロジロ花を見たり、雄しべの花粉が付いているかと手でさわってみたりして、うろうろ歩き回っているものだから、自転車で通りかかった駐車場の監視人が不審におもったのか近づいてきて、「何をさがしているんだ。」というので「めずらしい椿を探しているんだ。」と答えたとこころ、前にも調べに来た人がいて写真を撮っていったとのこと、どうも岩淵功氏や棟方さんの様な気がするけど…。

見つけてみると、前にも何度も探して通っていた場所なのに、どうして気が付かなかったのか不思議な気がした。

◆ヤブツバキ (つばき科) 【藪椿】



昔は『厚葉木(あつばき)』、『津葉木』の字が当てられていた。

厚葉木 ツバキの葉が厚いことから。

津葉木 葉につやがあるため

しかし現在は『椿』の字

を使っている。椿の字は丁度春の盛りに花を咲かせるために日本で作った漢字である。漢名にも椿という字はあるが日本の椿とは違う。漢名は『山茶』。[木偏に春]いい字でこの花にぴったりだ。しかし、中には花が終わるとそのままぼたりと落ちるので、首が落ちるといって嫌い庭に植えない人もいる。

夏泊半島の椿山の他に県内には、深浦にも椿山がある。元々ツバキは南国の植物ですが、北国青森に自生しているのは、大昔黒潮が運んで来たと予想される。(葛谷孝著、津軽・野の花、山の花75,76,77,78)

『花は一般に小さく海岸に面しているものと老木物は特に小さい。大型の花の直径は約76ミリあるが、小型の物では、約31ミリくらいに過ぎない。花卉の長さはたいてい55ミリに達している。花色概して濃紅であるが薄紅のものもわずかにある。』青森県の博物集成より(昭和9年(1934)青森師範学校校友会誌郷土号第2号)

このように和田干蔵氏はミチノクワビシンについては、一言も触れていない。細井氏の解説によると、【1983年桐野秋豊『北限地のツバキ再訪、椿』日本ツバキ協会誌に夏泊半島椿山でワビシンツバキの集団発生を見出したと報告している。】と有るからこの時に分かったのではないだろうか。

◆ミチノクワビシン(つばき科) 【陸奥侘芯】



『桐野秋豊は、夏泊半島椿山で侘芯ツバキの集団発生を見い出して報告し、後に「ミチノク侘芯」と命名した。侘芯とは、「雄蕊の葯が三角状に退化し乳白色となって花粉を全く失ったツバキのことで、侘助型の雄蕊をもったツバキという意味」と説明している。ところで、侘芯ツバキの場合には、花卉が小さくなって花が小型化し、早咲き性を伴うので茶花として賞用できる。・桐野は桃紅色1株、紅色3株、濃紅色7株、暗紅色2株の計13株を見い出したと述べているが、私も短時間で桃紅色～紅色7株確認出来た。そのうち2株は、侘芯花に正常花をわずかに混在していた。このようにここのツバキには、花の色に変異があり、大きさも違っている。これらの侘芯ツバキはどうしてできたのかは未だ科学的に解明されていない。』

「岩淵功画、細井幸兵衛、神真波解説 青森県植物図譜」より

細井氏の説明通り、雄蕊の部分
を拡大してみると葯が三角形、乳白
色で花粉が全く付いていないのが
分かる。



しかし、細井氏が指摘している通り、同じ枝の中に右
の写真のような葯に花粉を付けている花も1輪咲いてい
た。ヤブツバキと比べて花粉の数も、少ない様に思っ
たが、花が古くなっていたからかもしれない。下の花弁に花
粉が落ちている。後ないかと丹念に探したが、目の届く
範囲内では、見つけることは出来なかった。

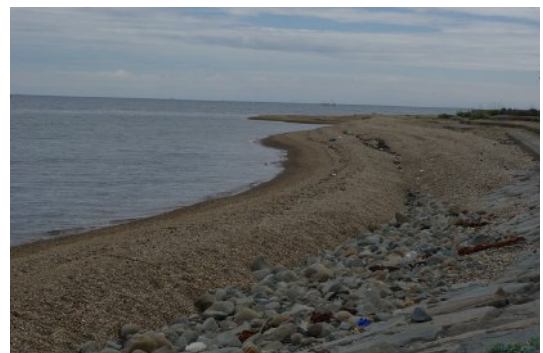


ミチノクワビシン(左)とヤブツバキ(右)
の比較してみると花径がミチノクワビシ
ンでは3cmから4cmに対しヤブツバキは
個体の違いは有るが6cm～8cmと大きい
のが分かる。色の違いの株は、今回は、
探し出せなかった。



白砂海岸

毎年夏泊半島には2回～3回は行っているが、昨年
は夏泊を重点的に調べようと思い3月から10月まで
毎月出かけた。浅所海岸へバイケイソウの花の時期を
調べるため5月は3回出かけた。椿山へ行く途中車窓
から『白砂海岸』という看板があり気になっていたが
何時も通り過ぎてしまっていた。昨年4月、時間があ
ったので、車を止めて行ってみたところ防波階段が300
メートルばかり造られその先きに少し粗い砂浜が500



mばかり続いている。幅は干潮の時でも5～6mばかりの狭い砂浜だが、そこに海砂浜植物の素晴ら
しい群落がある場所だった。ハマベンケイソウ、ハマハコベなど波打ち際から始まり背後には黒松林と
なり、まさに海岸植物分布の見本と言ってもいい場所である。

植 物 名	科 名	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
ハマベンケイソウ	むらさき科					●	●	●	●
ハマニンニク	いね科				●	●			
ハマツメクサ	なでしこ科		○	○	○	○	○		
エゾオオバコ	おおばこ科			○	○	○	○		
オカヒジキ	あかざ科					●	●	●	●
ラセイタソウ	いらくさ科					●	●	●	
ハマボウフウ	せり科				○	○	○		
ハマエンドウ	まめ科				●	●			
ハマハコベ	なでしこ科				○	○	○	○	
アマニュウ	せり科				○	○	○		
ハマイブキボウフウ	せり科				○	○			
ハマヒルガオ	ひるがお科			●	●	●			
キタノコギリソウ	きく科					●	●	●	
ハマアカザ	あかざ科						●	●	●



◆ハマベンケイソウ（むらさき科）【浜弁慶草】

余りの群落に驚いてしまった。特別珍しい植物ではないがこんなに沢山の群落は初めて見た。

◆ハマハコベ（なでしこ科）【浜繁縷】

これも海岸では良く見かける植物であるが、素晴らしい群落をつくっている。上のハマベンケイソウ、ハマハコベ、オカヒジキ、ハマアカザなどは窒素分の多いところに生える。波打ち際は、波に運ばれてくる海藻、動物の死骸などで比較的窒素分が多い。窒素分が無くなると次の場所へ種を飛ばし次々と場所を変える。しかし、この浜にこんなに繁茂しているのは、すぐ近くに船着き場があり、大きな釜が備え付けていて、ここで煮干しなどを作りその廃液を流した跡がある事からその窒素分が海へ流れ込み肥料となっているのではないかと考えられる。



浅所海岸

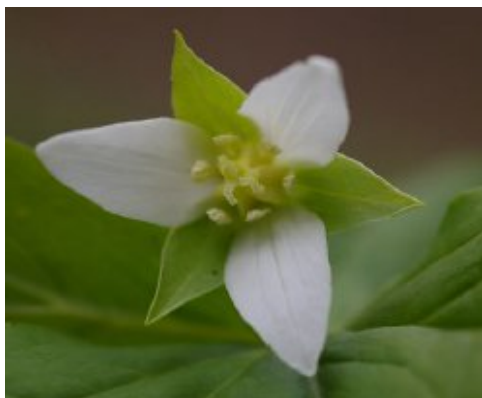
浅所海岸は、白鳥飛来地として知られ、毎年沢山の白鳥が飛来し、地元の浅所小学校の子供達がえさをやり長い間保護してきた。しかし昨年から鳥インフルエンザの感染を防ぐため、子供達も、一般の人もえさやりは禁止されてしまった。何時もの年なら何百羽と居る白鳥、鴨も今年は激減してしまったと新聞テレビで報じられた。その浅所海岸から50メートルばかり入ったところに浅所小学校がある。学校自然観察林の中に他では余り見ることの出来ない珍しい植物があるので紹介する。

植 物 名	科 名	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
フッキソウ	つげ科			○	○				
サイハイラン	らん科			●	●				
オオバナノエンレイソウ	ゆり科		○	○					
ムラサキケマン	けし科		●	●					
バイケイソウ	ゆり科		○	○					
シャク	せり科		○	○					
カンボク	すいかずら科		○	○					
ネコノメソウ	ゆきのした科		●	●					
ノウルシ	とうだいぐさ科		●	●					

※この表に載せていないが、その他カタクリ、キクザキイチゲ、エンレイソウ、ナガハシスミレ、タチツボスミレ、シャク、ホオノキなどもある。

◆オオバナノエンレイソウ（ゆり科）【大花の延齢草】

白い花を付けるエンレイソウにはミヤマエンレイソウ(シロバナエンレイソウ) 左と右の写真のオオバナノエンレイソウがある。それぞれの花の部分拡大した写真を載せたので比べてみると解るが、牧野新植物図鑑の説明をまとめる。

		
	ミヤマエンレイソウ	オオバナノエンレイソウ
地 上 茎	20～30cm	15～40cm
外花被(がく)	皮針形2～2.5cm	皮針形
内花被(花弁)	外花被より幅が広い	広楕円 外花被より内花被はるかに大きく 2.5～4.5 cmもある。
花 糸	扁平で短い	3～5mm
葯	花糸より長い8mm以下	長形で長さは10～15mm

簡単にまとめるとオオバナノエンレイソウの方が

花糸よりはるかに長い葯をもったおしべがある。(雌シベより雄シベが長い)

花被片が内外ともに先端の尖り方が鈍形

外花被より内花被が遙かに大きい

花被が上向き

内花被がどちらかといえば大きい。(個体差があるのでこれだけでは区別できない)



◆サイハイラン（らん科）【采配蘭】

余り日の当たらない樹の下に生えているが40cm位にも伸びる大きな蘭なのですぐに目に付く。写真で解るとおり、花序の状態が殊に細く長く切れた花被片の様子が、軍陣を指揮するのに使った采配に似ているため付けられた。薄暗い林の中で、カタクリ、キクザキイチリンソウなどの、早春に咲く花たちの采配をとっているのだろうか。林内には何十株も有り、花の色も白っぽい物から赤っぽい物まである。



◆フッキソウ（つげ科）別名:キチジソウ

【富貴草. 吉祥草】

富貴草とは、富み栄える貴い草という意味だからずいぶん縁起がいい名前だ。別名の吉祥草もおめでたい草、縁起の良い草という意味だからどちらにしてもいい名前を付けられたものだ。植物の名前でも差別用語の名前が付いたり、こんなきれいな花に何でこんな名前が付いたのだらうと頭かをかしげたくなる物もあるが、この花はいい名前を付けてもらって本当に良かった。この植物が常緑の葉のこんもり茂る状態から繁殖を祝う意味で付けられた。縁起がいいので庭園の下草として良く植えられている。



◆バイケイソウ（ゆり科）【梅蕙草】

八甲田山に咲く高山植物のコバイケイソウはよく知られているが、バイケイソウは低地から亜高山の湿った林内や草地に生える。60センチから150センチくらいの大型の植物である。丁度花の盛りに撮りに行くことが出来ず、早かったり、遅かったりで昨年5月から何度か行つて6月4日に、やっときれいに咲いている写真を撮る事ができた。